

2019年1月22日

報道各位

株式会社 三菱地所設計

## Excel®でできる BIM —実用性の高い BIM システムの開発—

三菱地所設計（本店：東京都千代田区、代表取締役社長：林総一郎）は、BIM（Building Information Modeling）をより身近なものとするため、建物の設計から竣工後の運用管理まで活用できる情報連携体系の構想を立て、設計業務の効率化や設計品質の向上を目的としたツール開発に加え、施工、運用段階でも同様のシステムが活用できるスキームを構築しました。

また、これまで十分に成し得なかったシミュレーション技術（熱流体シミュレーション・以下 CFD）との情報連携を可能とし、さらには先進的なビジュアライゼーション技術への展開と、将来を見据えた実用的な機能開発に取り組みます。

共同開発：株式会社アドバンスドナレッジ研究所

技術協力：三菱電機株式会社・三菱電機エンジニアリング株式会社

データ協力：株式会社ゼンリン



今回のリリースにおける開発範囲と各社の役割

〈 本件に関するお問合せ先 〉

株式会社三菱地所設計 広報室 TEL:03-3287-5001

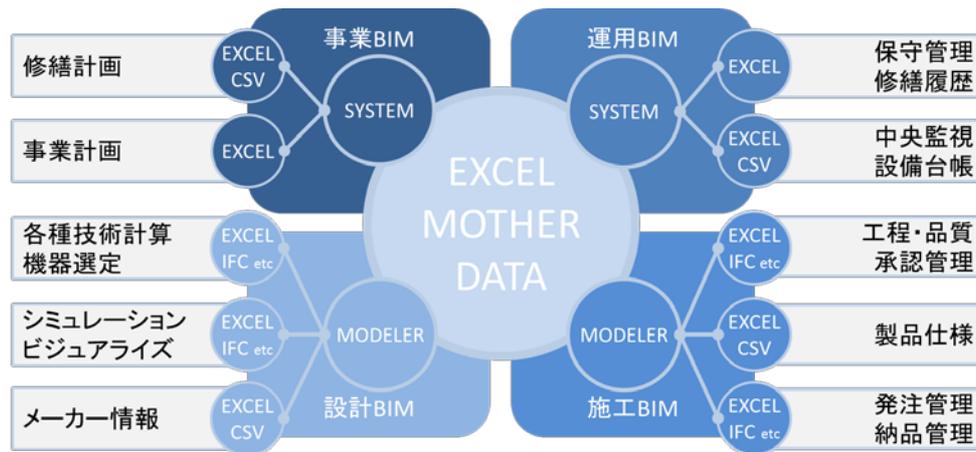
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-5-1 丸の内二丁目ビル

人を、想う力。街を、想う力。

三菱地所グループ

### 【三菱地所設計の BIM 活用ポリシー】

当社が掲げる BIM 活用の全体構想は、建物の企画、設計、施工、運用に至るすべてのフェーズにおいて有用な情報に汎用性や柔軟性を持たせるため、Microsoft Excel<sup>®</sup>を用いた Autodesk Revit<sup>®</sup>との連携ツールを自社開発することで設計業務を飛躍的に効率化させるものです。汎用性の高いソフトを利用するため、設計から運用管理に関わる全てのステークホルダーにとって親和性が高く、環境を大きく変えることなく情報連携することが可能となります。



三菱地所設計の BIM 活用全体構想

### 【アドバンスドナレッジ研究所について】

建築環境設計で広く使用されている汎用気流解析ソフトウェア「FlowDesigner」を開発したアドバンスドナレッジ研究所は、三菱地所設計と協働して、BIM とシミュレーションの一層の連携強化に取り組んでいます。さらに同社が保有するクオリティの高い可視化技術を基に、風の流れをよりわかりやすく見える化をする試みとして、MR 技術開発に取り組みます。当開発により「FlowDesigner」は高い創造性とスピーディな設計サイクルを実現する、かつてない検討ツールとなります。

### 【MR 技術開発について】

MR (Mixed Reality) は複合現実と呼ばれ、VR (Virtual reality) や AR (Augmented Reality) といった先進的な可視化技術のひとつです。MR の特徴は、①現実空間が視認できる②手をふさぐことなく両手が使える③実際に歩くことができることです。当社ではこれらの特徴から、将来的には設計から運用に渡り幅広く活用できることに着目し、実用的な機能開発に取り組めます。